



住みつづけられる まちに全力投球！

日本共産党 いたくら美千代

いま、区民のくらしや営業は長引くコロナ禍に加え、物価高騰や円安により深刻な打撃を受けています。

「給料上げて、年金削減やめよ、医療・介護改悪やめて」などの怒りの声、消費税減税・インボイス中止を求めるフリーランスや小規模事業者、健康保険証廃止とマイナンバーカードの強制などに対決し、政治を変えようという国民運動の新たなうねりが起こっています。今こそ、それに応える政治が求められています。

みなさんに支えられ、7期28年間区議会議員として全力で取り組んできました。みなさんの願いを区政に届け・生かすため、引き続き区政の場で働かせて下さい。

区民に安心の住宅を

区が責任を持つ住宅政策を次々と後退させ、住んでいる人がいるにも関わらず区立住宅も廃止し、また売却する方針です。撤回を求め、高齢者や障がい者、ひとり親の方々等が低廉な家賃で住めるよう、区が空き家等を借り上げて家賃補助をするなど、安心して住み続けられる住宅対策に全力で取り組みます。

みどりを守り・ふやし、地球温暖化ストップ！

目白台公園等「ナラ枯れ」を起こす害虫対策を急ぎ、今ある緑を守り、公園再整備をスピードアップさせ、インクルーシブ遊具の設置を進め、誰もが安心して憩える公園にします。

区のCO₂排出目標値を2030年度50%（現在28%）に引きあげさせ、気候危機を真剣に、切迫感をもって取り組むようつよく求めています。



「ナラ枯れ調査」肥後細川庭園

PROFILE

1951年 新潟県川口町（現長岡市）の農家に生まれる
小千谷高校卒業後、日立製作所勤務。後楽2丁目聖心堂医院勤務後、夫と印刷関連業を営む
'91年文京区議初当選、7期28年。現在、区議会建設委員会副委員長、都市計画審議会委員、住宅政策審議会委員、元三中PTA広報委員長、家族は夫とねこ、娘家族は横浜市と豊島区に在住

「願い」区政に届け、実現へ

— 私たち党区議団のとりくみの成果 —

小中全校視察で耐震補強・エアコン設置・トイレの洋式化・普通教室の改修を実現

私、いたくら美千代と党文京区議団は、「願い」を聞き取り、直ぐに現場を調査⇒議会で取り上げ論戦⇒実現まで何度も区に迫る—この粘り強い議会活動で区民のみなさんの「願い」を実現させてきました。



改修されてピカピカになった廊下

●1995年の阪神大震災直後、区内全小

中学校を調査し、施設の「耐震診断」と「耐震補強工事」を提起し、学校46棟の耐震工事を実現しました。また、地球温暖化で「教室がサウナ状態」という悲痛な声を受け、「学校冷房化」を提起し、普通教室は03年度からスタート。17年度までに「特別教室」や「体育館」のエアコン設置も実現させました。

●「和式」トイレの設置校を調査し、学校改修とトイレの「洋式化」を20年に実現。17年、老朽化した理科室などの「特別教室」33施設を調査し改修を求めましたが、区は、「しぶり」続け、工事完了は1室のみで、201教室は手つかず状態のままです。区議会の度に、この問題を指摘し続け、とうとう、今年からあと5年で改修すると、区当局に表明させました。

都バス車庫跡地に認可保育所と育成室を実現

党区議団は議会ごとにとりあげ、提案（議会質問15回）。区長は「福祉活用は計画していない」と冷たい姿勢に終始。茗荷谷駅横の都バス車庫跡地（現在、中央大学キャンパス内）の「福祉活用」の請願に対して、党区議団は他会派と協力し、「福祉活用を」の請願が2回採択（自民と公明は反対）。これが決め手となり、定員100人の認可園と定員40人の育成室がついに、今年（23年）4月オープンします。



大塚都バス車庫跡地

コロナ対策の強化

子育て給付金3万円（総額12億円）や中小企業事業継続補助30万円（総額14億円）／区独自のPCR検査所の確保／コールセンター25回線を4倍の100回線に／地域活動センターなど9カ所でワクチン集団接種／子どもたちの五輪への集団観戦を中止させました。



福祉対策

▶子どもの「国保料の均等割り」を「入学前」児童は半額にさせました。
▶高齢者のインフルエンザ予防接種を無料化、公衆浴場のガス代補助を実現。

何より、いのち・くらし
最優先のまちに



いたくら
美千代 文京区議会議員



9条生かした平和外交で
戦争と核のない世界を

日本共産党

『文京新聞』2023年新春号 文京新聞社発行（島元雅夫 文京区千石1-29-12）
日本共産党地区委員会はいたくら美千代の活動報告を次のように発表しました。

いたくら美千代の提案

区の貯め込み金 632億円の一部で **実現できます!**

区の保健所を2カ所体制に戻せ

3927人のコロナの新規陽性者がでた昨年のピーク時(7/30~8/7)には、自宅待機者の健康観察を民間会社へ委託するなど、文京区の保健所体制のよろさがはっきりしました(保健所費が23区中22位の低さです)。新たな感染症対策のため、保健所の人員増と2カ所から1カ所に減らされた保健所(本郷保健所)の復活が喫緊の課題です。

「学校給食費」の完全無償化を

学校給食費は、保護者の教育費の4割を占め、大きな負担です。葛飾区では、今年度から23区初の「給食費完全無償化」をスタートさせます(世田谷区や杉並区も検討中)。文京区でも7億円あれば実現できます。

理科室などの「特別教室」の改修を早く

シビックセンターの改修には、既に128億円を投入、「年あたり50億円」かけて進めているのに、201室の「特別教室」の改修は後回しです(1室のみ完了)。子どもの教育環境改善こそ先行させるべきです。

「75歳以上の高齢者の窓口負担」ゼロへ

昨年10月から75歳以上の医療費は1割から2割負担へと2倍になりました。75歳以上の住民税非課税者の窓口負担はゼロへ(美濃部都政では70歳以上は無料)。これは7.5億円で実現可能です。

自民・公明が支える
現区長の15年「**しぶる けずる かくす**」で
貯め込んだ税金 **632億円** (一昨年度だけでも64億円を積み増し)

●切実な願いを「しぶる」

特養ホーム建設を「しぶり」、区内定員は633人。待機者は370人(22年10月現在)に達し、シルバーピア建設もゼロです。小中学校の理科室や図工室などの「特別教室」201室で老朽化が進行。改修も「しぶり」、完了したのはわずか1室のみです。区立の保育園建設もゼロ。待機児童は326人(22年4月)。区内の認可園の70%以上が株式会社立民設園です。定員40人の育成室は、40~47人が25室、50人以上が16室という超過密ぶりです。これでは「文の京(ふみのみやこ)」が泣きます。

●区民サービスを「けずる」

現区長のもと、学童保育や図書館の民間委託や、交流館の廃止、学童保育の保育料の値上げ、区民サービスの削減など、「けずった」事業は20を超えました。

●余ったお金を「かくす」をくりかえす

「区財政は大変」と言い続ける当局。しかし、税収入は増え、ずっと黒字財政です。そのうえ、必要な区民施策までも削減し、余ったお金の一部(年間平均11億円)を、区は「かくし」、積立金に回し続けたのが、「632億円もの多額の貯め込み金」です。



23区で最も高い庁舎

地元からの声、全力で実現します。

環状3号線の小日向4丁目~関口1丁目までの計画は、閑静な住宅街を貫通して、環境を壊し、改築予定の小日向台町小学校敷地も狭めるもので、やめてほしい

目白台1丁目の神田川沿いから、目白台交流館へ行くためにBーぐるの延伸等移動手段をつくって

旧東大分院土地には有料老人ホーム等が計画されています。筑波大付属視覚特別支援学校へと続く西側歩道上空地は、段差をなくし区道と一体的になるよう事業者要望してほしい

視覚障がい者用点字ブロックを目白通りの江戸川橋交差点からメトロエレベーター乗降口までへと、さらには飯田橋方面への設置を(東京都に要望を)



▲エレベーターまで点字ブロックを

神田川の氾濫に対する備えとして、ハザードマップの周知と垂直避難場所をもっと増やしてほしい

小日向2丁目財務省宿舍跡地への特養ホーム建築を急ぎ、370人の待機者に応える次の計画をつくってほしい

移転が決定している小石川税務署土地は、北側宿舍地も含め区が特養ホームや住宅に活用するための検討を早く進めて



補聴器購入の助成額ふやして

高齢者の2人に1人が難聴と推計されています。文京区の補聴器購入補助は25,000円です。本来両耳に必要で、この額ではとても足りません。港区では非課税者で60歳から13万7千円を、課税者でも6万8,500円の助成と聞きます。認知症予防にもつながるもので、ぜひ港区並みに引き上げてほしい。



▲「高齢者も大事にする文京にしてね」の願いに応えます



▶「文教のまち」が泣く70mの超高層マンション建設問題でTBSから取材を受ける

いたくら美千代さんはこんな人



念願のエレベーター設置実現に尽力

早川妙子さん(水道2丁目)

いたくらさんは、江戸川橋駅へのエレベーター設置やこの地域になかった特養ホームをつくるためにねばり強く取り組んで実現してくれました。

ベビーカーや車いすでも安全な道路、障害ある人が行動しやすいように信号や点字ブロックの改善にも熱心です。

みなさんと一緒に廃止されようとした新大塚公園を守り、ズサンな管理の目白台運動公園の緑を守れと取り組んでいます。

仕事や生活のこと、住まいや環境の問題など気さくに話せる相談相手です。これからもこの地域に必要なベテラン議員さん、区民目線で区政で働いてほしい人です。

都議会議員
福手ゆう子



いたくらさんは、巻石通りの傾いた歩道にベビーカーや車いすの方々が長年苦勞しているのを見て、区にバリアフリー道路への改善を求め、併せて無電柱化も一緒に進めることも要求し、今工事が始まりました。

地元の皆さんの要求あるところにすぐに駆けつけ、受けとめ、区に実現を迫る実行力は、区政に必要です。

参議院議員
山添 拓



いたくらさんの行動に期待します。